

社報

いせやま

第二十五号

—— 絵画景観 ——



目次

横濱浮世絵 明治の景観	1
横浜市民ギャラリーコレクションにみる横浜風景	3
いせやま 歳時記	5
お知らせ 創建150年芳名簿の安置ほか	7



伊勢山皇大神宮

横濱浮世の景観

文・権禰宜 小澤 朗

明治三年に伊勢山皇大神宮は創建されました。旧暦四月十五日の遷座祭は横浜をあげての盛大なものでした。しかし、社殿は、今の掃部山公園あたりにあった小さな祠を現在の場所に移しただけのものでした。国際都市横浜を代表する神社にふさわしく立派な社殿をつくろうと、神奈川県庁は広く呼び掛けて寄附を募り、秋から社殿造営工事に取り掛かりました。一年後の明治四年春には、本殿・拝殿・社務所・鳥居などが出来上がり、神社らしい景観が見られるようになりました。

その翌年明治五年には、日本初の鉄道が開業しました。東京横浜間を、蒸気機関車が約一時間で走れるようになりました。そのころの横浜は外国貿易で賑わい始め、港には大型の外国船が入っています。世界各地からの文物、あるいは日本各地からの人が集まり、さまざまな仕事をし、交流が生まれました。伊勢山皇大神宮にも多くの人たちがお参りに来ていました。いわば横浜の名所になって、それを紹介する横濱浮世絵に描かれるようになりました。

今回ご紹介する絵は、そのうちの代表作です。題名を「横濱野毛伊勢山從海岸鉄道蒸気車ノ図」といい、作者は三代広重、明治七年の作品です。伊勢山皇大神宮を描いた何枚もの横濱浮世絵のなかでも人気のあるものです。

横濱浮世絵は版画として刷られ、販売されたものです。写真が普及していなかったので、一般の人たちはこのような絵で町の名物や流行の情報を得ていました。絵師もそれを意識して、話題となるような特徴をとらえた描き方をしていたようです。絵の右中央には、港に蒸気船や帆掛船が浮かび、

海岸の陸には開通したばかりの鉄道に蒸気機関車が煙を噴き上げています。その手前には坂を上る人力車、家族連れ、揃いの着物と日傘の女性たち、棧敷には座ってくつろぐ人もいます。「魚可」という暖簾がかかっていますから、魚料理も提供されていたのでしょうか。画面中央鳥居の内側には、中国服の人たちや洋装の男女の姿が描かれています。国際都市横浜らしい境内風景です。

左半分には、二つの鳥居が立っています。神社ならではの景観です。左上に「太神宮」の短冊と板葺屋根の社殿（拝殿）が描かれています。鳥居と社殿は伊勢神宮特有の形式をとっていて、それは建て替えられても受け継がれています。社殿右側に見えるのは富士山の姿です。

全体に、深緑色と紅色が鮮やかな対比になっています。境内には満開の桜が咲き、当時桜の名所としても知られていた様子が分かります。桜は伊勢山皇大神宮の社紋となりました。

創建直後の伊勢山皇大神宮とその周辺を描いたこの絵は、外国船、鉄道、桜、鳥居、社殿、富士山、外国人を含めた多様な参拝者が描かれています。当時の風景を特徴的に表していることが、この絵に人気がある理由のように思われます。



「横濱野毛伊勢山從海岸鉄道蒸気車ノ図」明治7年(1874)5月、横浜市中央図書館所蔵
作者：三代広重 出版者：紅英堂篤吉 表紙も同作品の一部

横浜市民ギャラリーコレクション にみる横浜風景

—伊勢山皇大神宮を中心に—

横浜市民ギャラリー 学芸員 齋藤里紗

横浜市民ギャラリーは一九六四年に開設されました。当時の飛鳥田一雄市長（一九一五—一九九〇）には「横浜現代美術館」を開設する構想がありましたが、万展示場所を求める美術団体の要望もあり、企画展とともに貸し会場を行う施設がスタートしました。市民ギャラリーという名称は現在全国で用いられていますが、初代横浜市民ギャラリー館長で詩人の山田今次（一九二一—一九九八）が考えたといわれています。

当館は現在、伊勢山皇大神宮のはす向かいに位置しますが、過去に二回移転しています。はじめの一〇年間は桜木町駅前の旧中区庁舎跡（更に以前は「横浜興産館」で運営をおこなった後、一九七四年七月に新設された関内駅前の横浜市教育文化センター内に移りました。しかし二〇一二年の東日本大震災の影響で移転を余儀なくされ、二〇一三年に同地での活動を休止。休館を経て、二〇一四年一〇月に現在の地で再オープンとなりました。なお、建物はかつていせやま会館（横浜市職員厚生施設）として作られたものをリ

ノベーションし、入口には港のコンテナをイメージした意匠を追加しています。

一九八九年に横浜美術館が開館し、美術作品の収集機能が集約されるまで横浜市民ギャラリーが市内でその機能を担ってきたことから、当館はギャラリー（展示場）という名称ながら、約一三〇〇点のコレクション（所蔵作品）を有しています。その内容は地域の作家の作品を中心とし、戦後から平成初期の美術の動向を伺い知ることのできる貴重なもので、海外の姉妹友好都市との交流展などのために横浜を主題に新作の制作を依頼したこと、横浜の風景が描かれた作品が多くあります。今回はその中より、伊勢山皇大神宮やその周辺を題材としたものを紹介します。

ライフワークとして数多の横浜風景を描き残した版画家の馬場橋男（一九二七—一九九四）は、『初詣で伊勢山神宮』で、境内の内部から見下ろすように初詣の日の様子を描写しました。出店から漏れ出るあたたかな光が着物姿で詣でた人々を照らし、そのシル

エットが映し出されています。細い三日月が浮かぶ空の色は紫色で表され、いつもはひっそりとした夜の闇が賑わいを受けて少し色づいたかのようです。

【作品図版1】

高い写生力で伊勢山皇大神宮を正面から描いたのは、日本画家の小島昇（一九三三年生まれ）。横浜開港一二〇年記念「横浜百景展」（一九七九年）のために描かれた水彩作品です。二ノ鳥居から階段を上がり、一ノ鳥居をくぐった後に広がる光景で、一對のそびえ立つ大注連柱に守られるように奥に本殿が控え、そのすぐ上に太陽が輝く様子は、この地が小高いことを示し神々しさを連想させます。

【作品図版2】

モダンな作風で知られる林敬二（一九三三年生まれ）の『横浜港』は、横浜・上海友好都市提携一五周年を記念した横浜美術展「横浜百景 横浜書展」（一九八八年、上海美術館）の出品作で、当時建設中だったベイブリッジが遠方に小さく描き込まれた、横浜らしい風景です。【作品図版3】

こうしたコレクションは、毎年二

三月に開催する「横浜市民ギャラリーコレクション展」で年ごとにテーマを設け、約五〇点ずつご紹介しています。

横浜市民ギャラリーでは、年に三回の企画展、大人・子どもを対象としたアトリエ講座、情報誌の発行のほか、近年積極的に地域連携に取り組んでいます。

「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」は、県立音楽堂（Music Hall）、県立青少年センター（Youth Center）、県立図書館（Library）、横浜市民ギャラリー（Art Gallery）、横浜能楽堂（Noh Theater）の頭文字をとった名称で、県と市の垣根を超えて活動しています。伊勢山皇大神宮など周辺のフォトスポット、文化を感じられるスポットを記した「横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽマップ」も発行していますので、ぜひこちらを手に周辺の散策もお楽しみください。



【作品図版2】小島昇《伊勢山皇大神宮》1979年
墨、岩絵具、紙 24.2×33.6 cm 横浜市民ギャラリー蔵



【作品図版1】馬場橋男《初詣で伊勢山神宮》
1978年 リトグラフ 31.1×22.1cm
横浜市民ギャラリー蔵



【作品図版3】林敬二《横浜港》1988年
油彩、キャンバス 91.0×116.0cm 横浜市民ギャラリー蔵



まいらんマップ（中面部分）



横浜市民ギャラリー外観 撮影：上杉明

いせやま 歳時記

伊勢山皇大神宮で行われている神事について、また、様々な行事や出来事についてお知らせいたします。

新嘗祭と奉祝行事

全国の神社で、十一月二十三日に新嘗祭が行われます。この祭典は新穀を神前に供え、その年の収穫を感謝するお祭りです。五穀豊穡を祈る二月の祈年祭と対になる祭典で、古来よりきわめて重視されてきました。当宮でも実りの秋の感謝祭を執り行います。

令和六年の新嘗祭は天候にも恵まれ、晴天の暖かな日差しの中、伊勢山皇大神宮崇敬会会員を中心に約一二〇人の参列をいただき、巫女により浦安の舞が奉奏され、賑々しくも厳肅に斎行されました。祭典後には阿久津裕司宮司、藤木幸二崇敬会会長より挨拶があり、神社へ寄せら



新嘗祭で奉仕される浦安の舞

れる奉賛の意へ感謝の辞が述べられました。また、拝殿の左右に設えられた奉献台には、伊勢山皇大神宮に縁の深い崇敬の方々より御奉献をいただいた品々がうず高く積み上げられ、新嘗祭を彩りました。

新嘗祭は伊勢山皇大神宮崇敬会にご入会いただければどなたでもご参列できますので、ご興味がありましたら是非ご入会ください。

また、境内では新嘗祭に合わせて、二十三・二十四日の両日にわたり多くの奉祝行事が行われました。

二十三日には伊勢山皇大神宮職員による雅楽・神楽の奏楽、老松中学校吹奏楽部・ダンス部による演奏会、翌日二十四日は関東観世流学生能楽連盟による「仕舞」、和太鼓グループ彩による和太鼓演奏が奉納されました。

このほか、境内では野毛友好会の皆様による屋台の出店、京浜急行電鉄株式会社による「ミニ電車試乗会」、鉄道模型同好会とな会による「鉄道模型運転会」などが催され、終日境内は七五三のお参りの方なども合わせ賑わいました。令和七年も盛大に祭事を行う予定です。



和太鼓グループ彩-sai-



老松中学校吹奏楽部

大祓式のご案内

半年に一度、知らず知らずの内に心身についた、罪けがれを祓い清める大祓式を執り行っております。「大祓」は遠く奈良時代に始まり、もともとは国家の行事でしたが、時代とともに民間の神事として定着しました。六月三十日に行われる大祓は「夏越の大祓」、十二月三十一日は「年越の大祓」と称し、ご参列の方はもとより、横浜市中全体の大きなお祓の神事を執り行います。

特に、「夏越の大祓」では、厳しい夏の暑さにより、病気などの災が身に降り掛からぬよう、境内に大きな茅の輪を作り、お祓いの後に茅の輪を潜り邪気を払います。神事後に、お初穂をお納めの方へ「茅の輪守り」をお頒ちしております。

また、本年も六月二十四日（火）から二十九日（日）までの午後三時三十分より、事前の大祓参拝も執り行っております。



茅の輪を潜る様子

三十日当日には午前十時、午後一時、午後四時の三回神事を執り行いますので、ご都合の良い時間にご参列いただけます。大祓式、大祓参拝共に、どなたでもご参列できますので、初めての方も奮ってご参列ください。

第五回伊勢山皇大神宮写真展 作品募集のご案内

当宮では、境内の四季折々の自然や、祭典や行事など、神社の風景を写真に納め、ご応募いただいた作品による「写真展」を開催しております。

横浜は開港以来、多くの写真館が開業し、写真師が活躍するなど写真に縁があることから、写真を通して、神社の魅力を発信してゆくことを目的に企画されました。

第四回は令和六年十月十九日から十二月一日までの間、伊勢山皇大神宮記念館にて開催、応募作品約二百点が展示されました。十月二十日には表彰式が執り行われ、受賞者二十名へ表彰状と副賞が授与されました。

本年も秋に写真展を開催すべく、「伊勢山と花」をテーマに現在作品を募集しております。詳細は当宮ホームページ内募集要項をご覧ください。皆様のご応募お待ちしております。

文・権欄宜 軽部 弦



第4回 伊勢山皇大神宮写真展



四季賞(春)「華やぎの門」 柴田貴美子氏

軍人之碑修理

本殿向かって左側に青銅製の「西征陣亡軍人之碑」があります。この碑は明治十年の西南戦争の戦死者(神奈川県内百三十一人)を慰霊するための碑です。令和九年には西南戦争が勃発してから一五〇年となります。当時の青銅製の碑が現存していることは大変珍しく、また大きさも総高約七・五メートルと日本で最大級です。今後多くの参拝者に御覧いただきたく、保存修理のための調査を現在行っています。

創建一五〇年芳名簿の安置

伊勢山皇大神宮は令和二年に創建一五〇年を迎えました。その慶賀に合わせ平成二十八年から令和五年まで各種記念事業を実施してきました。令和五年三月に記念事業奉賛会を解散したことにより順次芳名板を撤去し、皆様のお名前は奉名簿に記し本殿内に安置することとなりました。現在は、第三期境内整備事業として拝殿建て替え工事等を計画しています。

文・権欄宜 利根 伸介



伊勢山皇大神宮
崇敬会会員募集中
入会申込は
こちらから



ホームページ



<https://www.iseyama.jp/>



インスタグラム



<https://www.instagram.com/iseyamakotaijingu.official/>



フェイスブック



<https://www.facebook.com/iseyama.official/>



伊勢山皇大神宮

社報『いせやま』第25号

令和7年5月15日発行(年2回)

発行所 伊勢山皇大神宮 総務課 電話 045-241-1122

住所 〒220-0031 横浜市西区宮崎町64番地

発行者 阿久津裕司

印刷 山陽印刷株式会社